

議事要旨(4) 2016 年 9 月開催会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）への対応

冒頭、小賀坂副委員長より、2016 年 9 月開催会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）への対応案について説明がなされた。その後、川西常勤委員より、審議資料に基づき詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主なコメントと、それらに対する事務局からの回答は次のとおりである。

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - IASB の分析において測定基礎の選択の際に考慮すべき対象としている「財務業績」の観点について、前提となる内容が純損益なのか包括利益なのかが不明確なので、ASBJ として純損益に重心を置いている点をしっかり主張すべきだと考える。
 - EFRAG が財務業績の観点を重視すべきとのペーパーを提出しており、ASBJ としても戦略的に協調していく方針がよいと考えられる。その進め方を想定した場合、EFRAG の測定基礎の選択の考え方に同調してもよいと考えるが、どうか。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- EFRAG の測定基礎の選択の主張にある「妥協点」の意味が十分に明確になっておらず、財政状態の観点に基づいて測定基礎を妥協して選択するのはどういった場合かも明確になっていない以上、現時点では安易に協調はできないと考える。
- ある委員より、次のコメントがあった。
 - 純損益の定義付けや純損益計算書の目的の明確化が必要であると考えている一方で、IASB スタッフの分析を読むと、記述の困難性等を理由に記載を回避しようとする考え方が伺えるため、純損益の明確化を強く主張を継続してほしいと考える。

以 上